



ふるさと上越ネットワークたより

編集・発行 ふるさと上越ネットワーク事務局

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-1-2

TEL.03-5244-5138 FAX.03-3294-6106

●本庁担当

上越市 総合政策部 総合政策課 ふるさと応援室

〒943-8601 新潟県上越市木田1-1-3

TEL.025-520-5625

ホームページ▶

ふるさと上越 🔍



2025年2月レルヒ顕彰会のみなさん 撮影：松本栄規さん

「たより」No.304 目次

会員数と「ふるさと市場」販売報告	1	JネットHPのご案内	7
Jネットの活動とお知らせ	2	上越タイムス・上越ケーブルビジョン	
上越の偉人	3	(アクセス方法のご案内)	7
◇鴻(おとり)の爪あと 前島密の功績は消えない		瀧川鯉橋師匠 高座予定	7
滝沢一成		上越産品販売のお知らせ	7
上越の行事	4	上越市からのお知らせ	8
第100回高田城址公園観桜会		◇上越ふるさとファンミーティング	
上越の話題	4	2/24 開催報告	
令和7年春一番、そして寒波襲来	大谷健一郎	3/24(月) 出張!! 居酒屋上越開催	
俳句ひろば	5	Jネットからのお知らせとお願い	8
会員ひろば	6	あわゆき道中&レルヒ祭スナップ	8
◇「ふるさと」という力	伊藤利彦		

会員数と「ふるさと市場」販売報告

(1) 会員は591名(令和7年2月28日現在)

(2) ふるさと市場の販売取次状況 令和7年1・2月 150点 357,105円 ※前年同月 143点 336,304円

◆ 2月13日(木)湯島にてサロン開催

年末、年始のサロンに参加できなかったため、2月サロンに参加するのは久しぶりでした。定刻に乾杯が始まり、旧知の友人と近況を確認し合っていると、何時しかすっかり心地よく酔いが回り2次会へ。そこでは、たまたま隣席に座られた瀧澤先生から貴重な講義を授かりました。体操競技とサーカス、芸術の関係、体育原理とスポーツ哲学の相違など、ふと先生の若かりし頃のユニフォーム姿を思い浮かべてしまいました。

木嶋 彰



2/13 ご参加のみなさん

今回は25名の参加、2月で人数は少なかったですが、賑やかな懇親会でした。初参加はルディセル泰子さん。差し入れは内田さんから澤乃井（青梅の清酒）、新山さんから漬物、長谷川さん/浜野さんから焼売、永野さんからチョコレート。ご馳走さまでした。
(事務局)

【次回以降のサロン】 毎月第2木曜日開催 ◆ R7.3月13日(木) ◆ R7.4月10日(木) 参加費1,500円
(予約不要・途中からのご参加もOKです。)開催時間17:30～19:00

会場：東京新潟県人会館「ふれあいふるさと館」〒110-0005 東京都台東区上野1-13-6 TEL：03-3832-7619

東京新潟県人会館アクセス（電車）

●東京メトロ千代田線「湯島駅」6番出口から徒歩1分 ●東京メトロ銀座線「上野広小路駅」4番出口から徒歩5分

●都営地下鉄大江戸線「上野御徒町駅」A4番出口から徒歩5分 ●JR山手線・京浜東北線「御徒町駅」南口から徒歩6分

◆ 第56回勉強会報告 鯉橋師匠のミニ独演会と渋沢史料館の見学

今回の独演会は1月23日(木)に北区のいろは亭で実施しました。幸いに無風で暖かい初春のような日でした。Jネットからの参加者は18名で一般の方々を含めると会場はほぼ満席でした。開演後に瀧川鯉橋師匠(当会副会長)からJネットとの紹介があり、今回の独演会はJネットと一緒に企画し実現したものですとの説明をされました。

恒例の「まくらの小話」で観客を和ませて、本日の演目の「時蕎麦」と「井戸の茶碗」を演じられました。二つの演目を区切らずに、恰も一つの演目のようにまとめられ、巧みな話術で熱演されました。

最後に、正月公演等で嘶家さんが行う余興、扇子等の小道具を使って「恵比寿様」や「鶴の形」等の色物を追加披露して頂きました。終演後、都電（桜トラム）で飛鳥山公園に行き、東京で一番短いモノレールに乗り、園内のレストランで食事をしながら独演会等の話に花が咲きました。その後渋沢史料館に向かい、渋沢栄一翁の幾多の功績の展示物を見て、ひ孫さんが翁の秘話を語るビデオを視聴して三々五々散会しました。



ご参加のみなさん

◆ 第57回 J ネット勉強会 前島密翁墓前祭に参列と記念艦三笠の見学

今年は前島密翁の生誕190年の節目の年です。今年も中川上越市長をはじめ「前島密翁を顕彰する会」(滝沢一成会長)の皆さま方30名が参列されます。会員の皆さまも郷土の偉人を偲びご参列されることをお願い申し上げます。

日時：令和7年4月26日(土) 10時30分 現地集合
場所：横須賀市芦名 浄楽寺 (JR逗子・葉山駅南口 京急バス停2番乗車)

※ 詳細は別添資料をご参照下さい。



郵便の父 前島密翁の墓碑

式典終了後、懇親会と記念艦三笠の見学がありますので、希望者は事務局にご連絡下さい。

上越の偉人

◆ 鴻(おとり)の爪あと 前島密の功績は消えない

郷土の偉人前島密翁を顕彰する会 会長 滝沢一成

私たちの故郷上越の偉人と言えば、真っ先にあがるのが上杉謙信公でしょう。その次くらいに名前が出るのが今回ご紹介する‘郵便の父’前島密ではないでしょうか。

前島密は、越後高田藩下池部の大百姓上野家の次男として生まれました。教育に熱心であった母のもと幼い頃より勉学に励み、齢十二歳にして単身江戸へ向かい、苦学するなかで黒船来航という歴史的事件に遭遇、やがて海防・国防の志を抱きます。日本中を旅し、数多の人々と出会い、学び、青年密は実践主義に基づいた強靱な近代的精神を育んでいきます。

激動の幕末、明治維新を経て明治政府の官僚として抜擢されると、以来日本近代化の原動力となり、郵便事業創設のみならず、鉄道敷設、陸運・海運、金融保険、種々の殖産興業、電信、新聞、福祉、早稲田大学の創立など、近代日本の発展に大いに貢献することになります。まさに日本の近代化に八面六臂の活躍をした快男児、それが前島密であったと言って良いでしょう。

密翁は、後半生、自らを如々山鴻爪、あるいは鴻爪子(こうそうし)と号しました。鴻爪とはおとり、一説には白鳥の爪あとのことです。およそ一千年前、中国北宋の時代に生きた詩人蘇軾(そしやく)が、その詩に「雪泥鴻爪」と詠んだことに因みます。雪解けのぬかるみに白鳥の爪のあとが残っているが、やがて消え失せてしまう。人の生き死に、栄枯盛衰も時とともに儚く忘れ去られてしまうであろう、そんな意味です。

前述の通り、密翁は郵便制度の創設という一大事業を成し遂げたばかりでなく、陸運・海運はじめ数多くの事業に貢献しました。その足跡には目をみはるものがあります。にもかかわらず、密翁は功成り名を遂げたのち、自らを鴻爪子と号したのです。その心境はどうであったのでしょうか。何もかも泡沫の夢、邯鄲(かんとん)の枕、自分の業績などやがて忘れ去られる程度のことと覚ったのでしょうか。それとも謙遜でしょうか。それはご本人でなければ分かりません。

今年は密翁の生誕百九十年にあたります。上越市では、九月末に百九十年記念式典が開催されるほか、密翁を顕彰する様々な行事が行われる予定です。また密翁終焉の地、横須賀市葦名浄楽寺では、毎年四月の命日に墓前祭が執り行われていますが、今年はいっそう盛大に祭りが行われることでしょう。密翁は自分の功績などいずれ消えると思っていたかもしれませんが、没後百年を優に超えた今でも、私たちは彼を忘れず、ますます敬慕の念を深めています。あの世で、密翁は目を丸くしているかもしれませんが。

先日チベットで恐竜の足跡の化石が見つかったというニュースがありました。前島密の「鴻爪」も長きにわたって消えることなく、くっきりとした跡となり未来へ語り継がれていくのではないかと思うのです。

上越の行事

◆ 第100回高田城址公園観桜会 2025年春 日本三大夜桜 高田城址公園「観桜会」が第100回を迎えます。

開催期間：2025年3月28日(金)～4月13日(日) 観覧無料

住所：新潟県上越市本城町44-1

交通アクセス ※桜の開花状況等により交通規制があります。

- えちごトキめき鉄道・妙高はねうまライン「高田駅」から徒歩で15分
- 北陸自動車道「上越IC」から車で15分
- 上信越自動車道「上越高田IC」から車で10分

※右上のパンフレットを同封いたします。ご参照ください。



上越の話題

◆ 令和7年春一番、そして寒波襲来

上越市ふるさと応援室長 大谷健一郎

2月3日、新潟地方気象台が発表した「春一番」は、冬から春への季節の変わり目に初めて吹く温かい南寄りの強い風ですが、北陸地方では1999年からの観測史上最も早い発表となり、また、全国においても今シーズン初の春一番となりました。

上越市では最高気温が3月中旬並みの10.4度まで上昇し、まさに春が感じられるうらかな陽気となりましたが、翌日から一転、今季最強と言われた強い寒気が襲来し、安塚区では、2月5日午前4時までの24時間降雪量が99cmを記録、2月の降雪量としては過去最多を更新し、同日の全国1位となりました。

上越市では、2月6日に大雪警戒対策本部を設置し、警戒に当たることとしましたが、その後も降雪が続いたことから、市民生活の安全に万全を期すため、10日正午に大雪災害対策本部へ移行しました。同日、2メートルを超える積雪を観測していた安塚区、大島区、牧区に災害救助法が適用されるとともに、翌11日には吉川区と清里区が、さらに24日には浦川原区が追加され、全部で6区域が適用されることとなりました。

上越市の災害救助法は、2021年1月に市全域に適用されて以来のことです。この4年前の大雪災害では、高田の積雪が

249cmとなる記録的な大雪に見舞われ、特に街なかの除排雪が追い付かないため自家用車を出すことができず、多くの職員が道路上を歩いて出勤し、災害対応に当たったことを思い起こします。



2月10日 安塚区雪おろし



2月14日 大島区

今年の冬は、2月11日(祝)から次第に天気が回復し、比較的穏やかな天気が続きましたが、17日以降は再度、冬型の気圧配置が強まり、断続的な降雪が続きました。そうした中であっても、冬の一大イベントである「灯の回廊」は、災害救助法が適用された中山間地域を中心に、2月15日、22日の両日とも無事開催することができ、銀世界の山里が多くのキャンドルで彩られた幻想的な世界を見て、各地域の皆さんの思いをととても力強く感じました。



2月15日 灯の回廊(まき深山のともしび)

市では、市道除雪を行うため、例年、約30億円の予算を計上していますが、今冬は、この間の大雪により35億円を増額し、合計65億円の予算を確保して対応に当たっています。未明から日々、除雪作業に従事されている事業者の方々には本当に感謝の念に堪えません。この場をお借りしてお礼申し上げます。

あと1か月余り、春には記念すべき第100回の節目を迎える高田城址公園観桜会が開催されます。公園近くの食堂なかしまで催されるJネット春の交流会で、参加される皆様とお会いできることを楽しみにしております。
(令和7年2月26日)

俳句ひろば

千曲川荒ぶる大蛇浅き春

丸刈りに萌え出づ木の芽山目覚む

春雷も号砲ならず放置田

揚げ雲雀オフは目立たぬ迷彩着

花冷えもなんの薄着でお釈迦さま

乏硯

宮中歌会始入選作

令和7年お題「夢」

戦争の 対義語は夢 生徒らは
班学習で 言葉を探す

上越市 大堀みき

令和6年お題「友」

友だちは ぬないんだよと 言ふ君の
瞳の中に わたしを探す

上越市 相川澄子

新年の宮中行事「歌会始の儀」が1月22日、皇居で行われました。今年も、国内外から16,000首を超える歌が寄せられ、このうち入選した10人の短歌が天皇皇后両陛下の前で披露されました。昨年に続き、今年も上越市から、元教員の大堀みきさんが選ばれました。

今年のお題は「夢」。大堀さんが教員を務めていたとき、生徒が「戦争」の対義語を「夢」と表現したことを歌に詠まれたそうです。大堀さん談、「伝統とか文化の厚みというのを直に感じさせていただいたなと思っています。陛下より『生徒さんたちはよい学びをしましたね』とお言葉をいただきました」。

この2年間で、立て続けに上越市のお二人が入選され、宮中歌会始に招かれています。

◆ 「ふるさと」という力

伊藤利彦（本町1出身）

大チャンスだ。1976年秋、30歳を過ぎても芽が出ず、くすぶっていた私に香港支店への辞令が出た。そこは邦人社員は10名強だが、現地社員を合わせると200名の大所帯。頑張っただけで挽回するのだ。

着任し、無我夢中で働いた。すると、一年後に重点部門である為替ディーリングの担当となる。益々張り切っていたある夕方、欧州市場の開けを待っていると上席から電話。「今すぐ、こっちに来い」。急遽、日系取引先との懇親会に出ろという。気が進まないが、命令なので仕方なく、九龍の飯店に駆けつけた。

懇親会は麻雀から始まる。食事のテーブルとは別に、部屋の隅に麻雀卓が4つ。麻雀欠員補充の私は半ばヤケで打っていると、側に見学の御仁がいる。取引先本社からの出張者という。どこかで会ったような気がする。先方も私を見ている。

なーんだ、高校同級のNH君じゃあないか。二人はS担任の話で盛り上がり、妙高山が見守るふるさとの思い出を語った。心も安らぎ、満ち足りた気分になった。

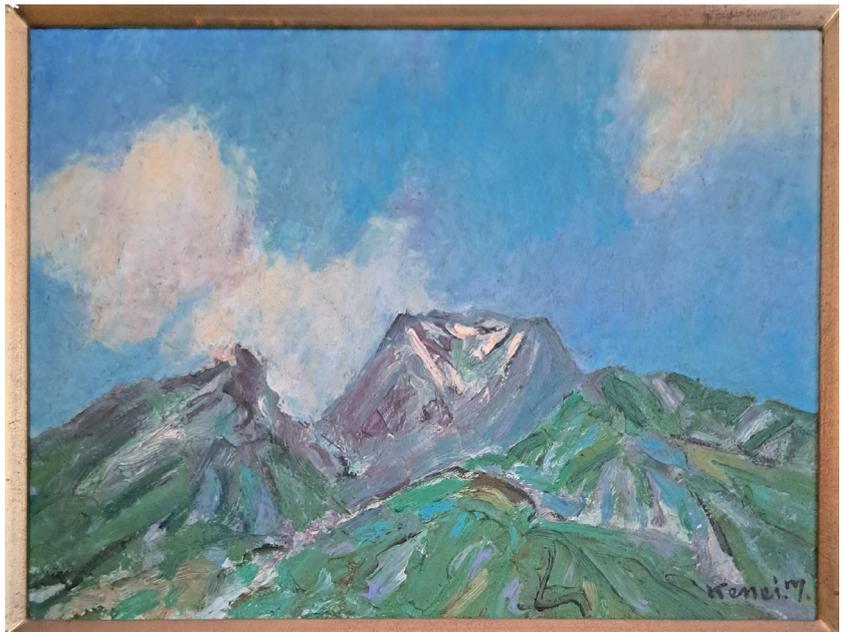
翌78年、マレーシア・クアラルンプールの合併会社に転勤した。年配の候補者が遠慮したらしく、拠点長ポストが私に回ってきた。しかし、着任早々、本社から「赤字はお前の会社だけだ」と叱られたのを皮切りに、悪戦苦闘の連続だ。言葉も宗教もわからず、カレー中心の食事で胃は疲れ、家にはクーラーもなく天井の扇風機だけで暑くて寝れない。東京への電話は1時間待ち、スタッフはスローで、屁理屈が達者。

そんな中、300 km南のジョホールの日系社と取引が始まった。手続のため、同社に出張すると、そこに現れたのは高校同期のYH君。たちまち、高田の話となり、夕食は自宅に招かれた。彼の奥さんも高田生まれ。地獄に仏とはこのことだ。ふるさと話にどっぷり漬かると、苦勞の悪夢も消え去った。

遠く離れて出会うふるさとには懐かしさに加え、格別の力がある。薄っぺらな出世志向に取りつかれた頭を冷やすし、失意の心も癒す。その後の失敗や挫折を乗り越えてこれたのも「ふるさと」という力のおかげと思う。

ちなみに、異国で「ふるさと」を共有したNH、YHの両君と私の三人は、今や、揃って高校OB会の東京ゴルフコンペの常連となっている。

我が家の自室に架けた妙高山の絵は、高田高と新潟大で教鞭を執った画家、三浦顕榮氏の作品だ。力強いタッチは、揺るぎない「ふるさと」そのものである。



「妙高山」三浦顕榮・画

◆ ふるさと上越ネットワークのホームページをご覧ください

「たより」を全ページカラーでご覧いただけ、上越市の四季の写真他、掲載は多様です。

お知らせページでは各地の話題やイベント情報、会員ひろばでは、たくさんのお話、また会員のみなさんからの寄稿文やホットな情報もご覧いただけます。

ぜひとも、「ふるさと上越ネットワーク」を検索し、ご覧ください。スマートフォンでは、右のコードからご覧いただくことができます。



上越タイムス電子版、上越ケーブルビジョンへのアクセス方法(会員のみ)

◆ Jネット会員は、無料でご覧いただけます。

- ① HP 右肩「Jネット会員メニュー」をクリック
- ② 「ログインはこちら」をクリックし各社のHPへ
- ③ 下記のメールアドレス・パスワードにてログインしてください。

瀧川鯉橋師匠 高座予定 鯉橋：090-4730-9032 rik_yoh_taki@taupe.plala.or.jp (鯉橋メール)

◇3/23(日) 昭月落語会

時間：午後3時～5時 木戸銭：2,000円
出演：鯉橋「百年目」、里光、桃之助
会場：寿し屋の昭月 新川崎または鹿島田。
(鹿島田1-4-8)

◇4/17(木)

「七人の侍」～流浪の落語会～ <5/27、6/17も>
時間：午後1時～3時半ごろ 木戸銭：1,500円
出演：鯉朝、枝太郎、楽生、鳳志、鯉橋、藍馬
会場：お江戸両国亭(墨田区両国4-30-4)

◇5/3(土) 梶原いろは亭「なかよしおじさんズ」

時間：午後1時～3時ごろ
木戸銭：2,500円 出演：鯉橋、小助六、夢丸
会場：梶原いろは亭(上中里3丁目1-4)
お問合せ：03-6322-1622(いろは亭。水・日の昼間)

◇5/17(土) 腰越・津落語会 in 宝善院

時間：午後2時～4時
木戸銭：1,500円
出演：昇乃進、鯉橋
会場：宝善院・大師堂(鎌倉市腰越5丁目)
お問合せ：0467-31-8010(宝善院)

☆ブログ～七転び八起の末のホンダラダ～ <https://blog.goo.ne.jp/rikyoh3194>どうぞご覧くださいませ。鯉橋拝

上越産品販売のお知らせ

● Jネットふるさと市場「取次販売商品一覧」

会員は送料無料でお取り寄せができますので、どうぞご利用ください。
現行の各社パンフに加えて、取次販売商品一覧(A4版1枚)を同封にてお届けします。

● 上越特産市場 JCCソフト株式会社運営による、上越農林水産物・特産品のネットショッピングモールです。「上越特産市場」でネット検索いただき、お申込み下さい。

● 常設店舗「雪国商店」(有楽町駅から徒歩3分)



場 所：有楽町交通会館1階
営業時間：11:00～19:00
年中無休(年末年始は休業)

「雪国商店」または下記のURLよりご覧ください。
<https://yukiguni.shop/>

● 新潟・上越妙高「うまさ直送! 雪国マルシェ」

日 時：3月22日(土)・23日(日) 4月26日(土)・27日(日)
会場・時間：11:30～17:30 交通会館1Fピロティ

お問合せ先 JCV東京情報センター TEL：03-5218-7730

上越市からのお知らせ

◇首都圏におけるイベント開催について

2月24日(月)、銀座・新潟情報館 THE NIIGATAにおいて「上越ふるさとファンミーティング」を開催しました。

Jネットの皆様をはじめとする市出身者やふるさと納税の寄附者などからご参加いただき、イラストレーター大塚いちおさんのトークイベントや上越ならではのスイーツの提供を通して、当市の魅力をPRしました。

3月24日(月)には、市が契約しているコワーキングスペースにおいて、今年で第100回を迎える「観桜会」の直前PRイベントを開催します。地酒とおつまみもご用意しておりますので、ぜひお気軽にご参加ください。中川市長も参加予定です。

- イベント名：出張！居酒屋上越 丸の内お花見店
 - 日 時：3月24日(月) 18:30～20:00
 - 会 場：WeWork丸の内北口9階ラウンジ 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビルディング
 - 参加費：無料 ● 申 込：ふるさと応援室までメール、お電話でお申込みください。
- 総合政策課ふるさと応援室（メール：furusato-ouen@city.joetsu.lg.jp TEL：025-520-5625）



2/24 (月・祝)大塚いちおさんを囲んで



●●●●●●●●●● Jネットからのお知らせとお願い ●●●●●●●●●●

1/25号「上越懐かしいウンマイ(旨い)料理」(小坂庸雄記)について次のご意見いただきました。

- ・サメの煮凝りとあったが、我が家では鱈の煮凝りだった。温かいご飯にのせると煮汁がとけてウンマかった。(O.Y.さん、八千浦出身)
- ・我が家もサメでなく真鱈、父の大好物だった。(N.S.さん、直江津出身)

会員の皆様よりのご寄稿や風景写真、ご寄稿に関してのご意見などをお待ちしています。

Mail 送信先 事務局：k.miyazato@araipt.co.jp

令和7年2月

あわゆき道中&高田瞽女の門付け風景再現とレルヒ祭スナップ

撮影：松本栄規さん



◎次号「たより」は令和7年4月25日の発行です。